

徳島県徳島市千松小学校
太田 裕子

●協働学習 ■児童生徒実践型

実践タイトル 電子黒板を用いて情報を共有

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

電子黒板・ムービー・PC

・自分たちの劇を録画し、電子黒板やPC上で録画したものを画面を止めながら見ることで、自分たちの外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）について客観視し改善点を話し合う。

児童が録画した映像

・グループで録画した自分たちの劇の映像を見ることで、自分たちの外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）を客観的に振り返り、改善点等を話し合う。

参考にしてほしいポイント

- ・導入で、英語ノートの挿絵を使ったチャンツ教材を用いて、口慣らしをし、楽しい雰囲気をつくる。
- ・市販教材（DVD）を見ることで、ネイティブ・スピーカーが演じる豊かな外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）に触れ、自分の劇を見直す時のポイントに気付かせるとともに、自分たちの劇の外国語での表現もより豊かにしたいという児童の意欲を高める。
- ・自分たちで、より効果的な外国語での表現を考えたり話し合ったりしながら録画する（前時）。
- ・録画したオリジナル劇を視聴し、場面を止めたり書き込んだりしながら、グループで外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）の改善点などについて話し合う。

本時の展開(主な学習活動)

学習の流れ(分)	主な学習活動	ICT機器・教材、コンテンツ等
導入 0 5	・ Warm up Let's Chant ♪Please help me!♪	・ 電子黒板 ・ 英語ノートp51の挿絵を用いて教師が作成した教材（プレゼンテーションソフトウェア）（写真1）
展開 5 35	・ ネイティブ・スピーカーが演じる「三匹のこぶた」の劇を視聴し、外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）について気付いた点や良かった点、自分たちの劇に生かしたい点などについて話し合う。 ・ グループごとに劇の動画（前時の練習を録画したもの）を視聴し、外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）の改善点を話し合う。 ・ 話し合った改善点をもとに劇の練習をする（時間があるグループは、さらに劇を録画し、録画した映像を見て話し合いをする）。	・ 電子黒板 ・ 市販教材（DVD）「三匹のこぶた」 ・ 録画した映像（前時に撮影・写真2） ・ 電子黒板・PC（写真3） ・ ムービーカメラ
まとめ 35 45	・ クラス全体で他グループの改善前動画を視聴した後、改善後の劇を見て、気付いた点・工夫している点・よい点など意見交換をする。	・ 電子黒板 ・ 録画した映像



写真1：英語ノートの挿絵を用いたチャンツで口慣らしと心ほぐしをする



写真2：グループごとに自分たちで「オリジナル劇」を演じ、動画撮影する

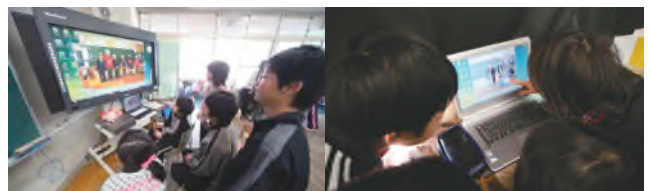


写真3：撮影した自分たちの「オリジナル劇」をグループごとに視聴し、外国語での表現の改善点について話し合う

ICT活用への児童生徒の反応等

- ・ ネイティブ・スピーカーが演じる外国語での表現のモデルを示すことで、外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）をより豊かにしたいという児童の意欲が高まり、工夫すべきポイントが明確になった。
- ・ 自分たちで録画することで、協力しながら外国語での表現について考えを深めることができた。
- ・ 自分たちの劇を電子黒板やPCで客観的に見ることで、具体的な話し合いができ、外国語での表現による劇を創造的に豊かにふくらませていくことができた。

活用効果

評価の観点	・ 思考・判断・表現	具体的変容	・ 自分たちの劇を電子黒板やPCで見直すことで、外国語での表現（セリフ・ジェスチャーなど）についてより深く考えたり判断したりするなど、話し合いがより具体的になり、外国語での表現の工夫につながることができた。
-------	------------	-------	---

実践の手応え

- ・ 録画せずに練習するだけだと細かい点まで共有できないが、グループPCや電子黒板上で見直すことで、自分たちの外国語での表現を客観視し共通理解することができ、外国語での表現の工夫に迫ることができた。